

ずいそう

SDGs とソーシャルインパクト

高橋 修



1. 今更ながらの SDGs

読者の皆さんは「SDGs」とは何のことか、既にご存じのことと思います。今では小学生でも Sustainable Development Goals と答えてくれるのではないのでしょうか。しかしながら、17 のゴールをすべて言い当てることはできるでしょうか？また、これらのゴールが提唱されるに至った経緯をご存じでしょうか？さらに、それぞれのゴールにはターゲットというものが紐づけられていて、17 のゴールのターゲットを合計すると 169 にもなることを知っていたでしょうか？

本稿では、今更ながらのネタで申し訳ありませんが、最近になって私が気づいた SDGs に関連する事項について書いてみました。さらに、最近私の職場では、SDGs にかわる表現として「ソーシャルインパクト」がやたら使われていますので、この表現についても少し考えてみたいと思います。

2. SDGs のゴール、ターゲット、指標

私は大学に勤務しており、実はその大学は SDGs ゴール 9 のハブ大学になっています。ハブ大学という

のは、ゴール達成に向けて世界的にけん引役となる大学として国連から任命されているもので、第一期(2018 年～2021 年 5 月末)に続いて第二期(2021 年～2024 年 12 月末)も任命されています。

SDGs は、2030 年までに持続可能でより良い社会の実現を目指す国際的な目標であり、国連が提唱しているゴールです。そして、それぞれのゴールには、達成するための具体的な目標や数値を表したターゲットも定められています。たとえば、ゴール 9 は「産業と技術革新の基盤をつくろう」であり、だれもが安心して快適に暮らせる社会をつくるために、暮らしを支えるレジリエントなインフラを構築するとともに、技術革新で新たな価値をつくり、持続可能な産業を構築しようとする目標です。まさに、我々の建設分野にぴったりのゴールということになります。

そして、このゴール 9 には表 1 に示す 8 つのターゲットが設定されています。読み返してみると、多くのことが具体的な数値目標を挙げて記述されています。実は、これらのターゲットに対しても、その達成度を測るためのインジケータ「指標」が設定されており、その総数は 231 もあります。とても奥深いことが理解されます。

表 1 ゴール 9 のターゲット

9.1	すべての人々に安価で公平に使えることを重視した経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつレジリエントなインフラをつくる。
9.2	包摂的かつ持続可能な産業化を促進し、2030 年までに各国の状況に応じて、雇用及び GDP に占める産業セクターの割合を大幅に増加させる。後発開発途上国についてはその割合を倍増させる。
9.3	特に開発途上国における小規模の製造業やその他の企業が、安価な資金貸付などの金融サービスやバリューチェーン及び市場への統合へのアクセスを拡大できるようにする。
9.4	2030 年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。すべての国々は各国の能力に応じた取組を行う。
9.5	2030 年までに、イノベーションを促進させることや 100 万人当たりの研究開発従事者数を大幅に増加させ、また官民研究開発の支出を拡大させるなど、開発途上国をはじめとするすべての国々の産業セクターにおける科学研究を促進し、技術能力を向上させる。
9.a	アフリカ諸国、後発開発途上国、内陸の開発途上国及び開発途上の小さな島国への金融・テクノロジー・技術の支援強化を通じて、開発途上国における持続可能かつレジリエントなインフラ開発を促進する。
9.b	産業の多様化や商品への付加価値創造などに資する政策環境の確保などを通じて、開発途上国の国内における技術開発、研究及びイノベーションを支援する。
9.c	特に後発開発途上国において情報通信技術へのアクセスを大幅に向上させ、2020 年までに普遍的かつ安価なインターネットアクセスを提供できるようにする。

3. 我々はなぜ SDGs を掲げるのか

SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身に取り組むユニバーサルなものであり、企業も行政も研究機関も積極的に取り組んでいく必要があります。それでは、なぜ我々は SDGs を掲げて（たとえば上着にバッジを付けて）、その目標実現のために取り組んでいるのでしょうか。それはメリットがあるからであり、以下のメリットが考えられます。

- ①組織やグループのブランドイメージの向上につながる
- ②新しい事業やビジネスのチャンス創出につながる
- ③社会課題の解決に貢献しているという働きがいや満足度の向上につながる
- ④組織やグループの存在感アップや存続につながる
- ⑤自分の仕事が SDGs に貢献しているか、貢献できているのかの戒めにつなげられる

最後の⑤は、メリットと考えられるかどうか微妙なところがありますが、まったくの私見であることを付記しておきます。

4. SDGs とソーシャルインパクト

最近、SDGs にも増して私の職場でよく見聞きする

のが「ソーシャルインパクト」という表現です。「ソーシャルインパクトを創出する研究開発」とか「ソーシャルインパクトにつながる取組」といった感じで使われます。ソーシャルインパクトも SDGs のように、共通の目的意識を設定して共に頑張っていきたいというような、ある種の目指すべき方向性を示すものと考えられますが、私の職場では、そうなるようにもっと努力せよという、叱咤激励的なニュアンスに感じられるところがあります。上記の SDGs のメリットに挙げた⑤的な意味合いです。ただし、SDGs よりも漠としたイメージのものとなります。

我々ビジネスマンは、いろいろな場面で目標を達成すること、他者よりも抜きんでることが求められます。そして最近、その要求がどんどん高くなっていると中間管理職は感じているのではないのでしょうか。SDGs もソーシャルインパクトも呪詛と思わずに、活動を祝福する、後押しする言葉と考えるべきなのでしょう。私の場合は、もう少し今の職場で頑張らなければならないので、SDGs とソーシャルインパクトを意識しながら日々の仕事に励みたいと思います。

——たかはし おさむ 長岡技術科学大学 環境社会基盤系 教授——

